

令和元年度利用者インタビューによる各団体からの聞き取りの結果について

1. 目的

「久留米市第8期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」策定の基礎資料とすることを目的に、地域で活動されている団体や介護サービスの利用者等に対して、活動の課題等を把握するための調査を実施したものを。

2. 調査対象・方法等

(1) 調査

実施団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で介護予防を行っている団体（3団体） ・ 地域で認知症カフェを行っている団体（1団体） ・ 介護サービス利用者（1事業所）
------	---

(2) 調査方法 訪問による聞き取り

(3) 調査期間 令和2年1月15日（水）～令和2年1月27日（月）

3. 調査結果から見えてくる現状と課題

《調査結果》

(1) 活動の立ち上げや参加したきっかけ、参加して感じていること

【住民主体の通いの場】

- ・ 自分自身のために、活動を始めた。
- ・ 回覧板を見て、友人を誘って参加した。
- ・ 校区のコミュニティセンターでの活動に参加していたが、距離が遠くて参加するのが難しくなり、集落の単位で活動する場が欲しいという話になった。
- ・ 運動することで体力が付き、参加する前と比べると体の調子も良くなった。（膝の違和感が無くなった。歩けるようになった。）
- ・ 元気になった。また、気持ちが若くなる。

【認知症カフェ】

- ・ 話を聞いてもらうことで、力をもらっている。
- ・ 認知症予防のために参加したが、他の人が一生懸命に頑張っている姿を見て、自分も頑張っている。
- ・ 他の人と話ができて、自分の思ったことができる。認知症の進行が少し遅れたのではないかと感じている。
- ・ 行くところがあるのと、全くないのでは、全然違う。

【介護サービス】

- ・元気がなった、健康になった気がする。
- ・話をしながら食事ができるのが楽しい。家ではあまり食べない人も、デイに来ると食べられるので、家族も安心している。
- ・家にいると寝ていることが多いが、デイサービスに来ると周りに人がいるので、シャキッとなる。

(2) 活動を続けていく、広げていくためのポイント

【住民主体の通いの場】

- ・近くに活動する場所があることが、続けていくための条件。
- ・コミュニケーションがうまく取れているから、活動がスムーズで、お互いを認め合いながら出来ている。
- ・役割分担をして、それぞれが出来ることをやってきたので、長続きしている。
- ・人に頼るのではなく、自分たちの力でやっていくことが大事。

【認知症カフェ】

- ・医師から紹介され、認知症カフェに参加するようになった。退職すると情報を得る機会がほとんど無くなる。医師から教えてもらおうと参加を促す効果が高い。
- ・安心して居られる場所をうまく作ることが重要。
- ・イメージの問題。面白い、楽しいということがわかれば参加するようになる。

【介護サービス】

- ・高齢者が集える場を続けてほしい。
- ・送迎があるのでサービスを利用できる。送迎は必要。

《課題》

- ・身近な範囲で自ら通える場の確保
- ・活動の場、取り組みについての効果的な周知・啓発
- ・継続的な活動による健康・生きがいづくり